

松陵

秋田県立能代高等学校同窓会
事務局
7016-0184 能代市高埜2-1
能代高等学校内
TEL 0185-54-2230
FAX 0185-54-2231
題字は神馬前会長

同窓会員の皆さんへ



同窓会長 田中仁純

(第二十五期)

能代高校同窓会員の皆さんにはご健勝にてお越しのこととお慶び申し上げます。さて、去る九月十七日、創立八十周年記念式典が、来賓はじめ関係者千百名参列のもと伝統校にふさわしく盛大に挙行されました。続いての記念講演は宇宙開発機構の本木雄吾氏(昭六十三卒)で、スペースシャトルに乗船した野口さんの特写もまじえての大変興味ある講演となりました。午後からの祝賀会は約三百名程の出席で、母校のさらなる発展を願い祝杯をあげ三時間が短く感じられた次第であります。

同窓会員の皆さんからは多数出席をいただき、また記念事業への物心両面にわたるご協力を賜りこの紙面を拝借して厚くお礼申し上げます。

母校はご存知のように、大正十四年三月、待望の地元中学校開設ということもあり、百名の募集に約三倍の競争のもと入学試験が行われ、四月には晴れて合格の一期生による入学式が挙行されております。初代武藤健三郎校長のもと地域の期待を担い一丸となつて努力邁進した姿がうかがわれます。以来幾星霜、学制改革により能代中学、能代南高校、そして能代高校へと校名を変え変遷をたどつて来ましたが、また創立の地樽子山から永久校舎の高埜の地に移転、その間約一万九千余名が学窓を巣立っております。「文武両道」を校是として、社会で多方面にわたり有意な人材として活躍、スポーツにおいてもオリンピック選手五名を送り出すゆめなきない県内伝統校として誇りを堅持しております。

校訓「至誠力行」は卒業生の北斗星の如き存在として輝き続けております。八十年の校史をふり返るとき、多くの困難を克服し現在の発展を築きあげた先人の努力と支援に感謝の気持ちを持ちたいものであります。今後教育改革の荒波は容赦なく寄せて来るでしょうが、松陵健児の意気は益々盛んであります。

母校能代高校に学んだ喜びと誇りを持って支援したいと思えます。最後になりますが同窓会員皆さんのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



校長 菊谷 一

八十年の星霜を経て

同窓会員の皆様には母校の教育振興のために平素から特段のご支援を賜り、さらに本年度は創立八十周年を迎え様々なお立場でご協力いただきましたことに、衷心より感謝申し上げます。

創立八十周年に係る一連の記念事業は、校内の施設設備の充実に始まり、「同窓会員名簿」の発行、今年六月の招待野球試合、そして九月十七日の式典、講演会、祝賀会をもって、滞りなく終えることができました。

メインテーマ「松陵を舞う八十の彩色」を凌駕する力を今一には、在校生の次のような決意が込められています。「創立以来八十年、本校には、その歴史にふさわしい光輝ある伝統と清新澆刺たる校風がしっかりと根付いています。これは、

激しく揺れ動く歴史の中で、歴代の校長・教職員各位の熱心な、先見あるご指導、そしてそれに応えた同窓先輩諸氏のためまぬ努力、そして建学以来脈々として貫かれてきた「至誠力行」の精神がもたらしたものだといえます。私たちは、新たな歴史を築き上げていくのだという進取の気概を持ち、「松陵健児」一人ひとりが自らの理想の追求に全力を挙げつつ、「樽子山」から「高埜」に受け継がれ、築かれた輝かしい伝統の更なる発揚に努めていく所存です。」

周年事業に併わせて各部門ともよく健闘し、運動部では団体三種目、個人五名、文化部でも四部が全国大会に出場しました。また、硬式、軟式両野球部の春季大会での活躍は、久々に地元

の野球ファンを熱くしました。一方、同窓会では「母校賛歌」を冊子にされ、松陵会は硬式野球部史「松陵会史」を発刊されました。また、太田久元監督がイヤ・オブ・ザ・コーチに選出される朗報もありました。

生徒の多様化に伴い全県一通学区になる等、高校入試制度が見直され、また今後、深刻な少子化問題への一施策である高校再編計画が、地域の実情に合わせて推進されていきます。このような情勢の下で、本校がこの地域を代表する高校としての歩みを続けるには、「至誠力行」を心の拠り所に「文武両道」を追求し、確かな足跡を残すことが責務と考え、教職員一同、気持ちを新たにしております。

今後とも母校へのご声援をお願いいたしますとともに、能代高校同窓会のご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

平成十八年 能代高等学校同窓会総会・新年祝賀会のご案内

◆日時：平成十八年一月二十七日(金)

◆受付：午後五時より

◆会場：料亭「金勇」(能代市柳町) 電話〇一八五―五五―三三五五

◆会費四〇〇〇円(当日持参)

※当番幹事は四十五期(新制二十七期)です。参加申し込みは各期幹事、または同窓会事務局へ連絡してください。

同窓会事務局(能代高校内) 電話(〇一八五)五四―二三三〇
FAX(〇一八五)五四―二三三一

恩師探訪

能代高校において教鞭をとられた先生方に当時の思い出を綴っていただく「恩師探訪」のコーナー。今回は高橋彰三郎先生に筆を振るっていただきました。

思い出すことどもも

高橋 彰三郎先生

勤務したのは昭和三十六年から。能代で結婚し、四十年三月生まればかりの子供を抱えて本荘高校に転動した。

四十年卒業の諸君は一年生から持ち上がった。校長は沖田領之助先生。授業に厳しかった。初対面で、現役で東大に入る生徒がいるが教えることが出来るか、と問われもした。

校長室は職員室の隣、授業に行くのを忘れていると側に来て机をとんとんと叩く。授業を早く切り上げてきた先生が校長室の前から教室に戻されたことも



昭和36年の国語科。佐々木辰雄、山田顕一、鈴木正昭、白鳥邦夫の各先生

あった。定期考査の模範解答は廊下に掲示することになっていったが、専門の数学はいつも自分で解いて確かめておられた。

国語科の先生方の姿勢も凛としたものがあつた。試験問題は共通問題であつたので、作問のセンスを問ひ、解答の是非を論じあうことしばしばで、帰るに帰られないことが多かった。中でも山田先生、鈴木先生は舌鋒鋭く、懐かしい思い出である。

気が良かった。講演会で秋田に小林秀雄がくる。文藝春秋の移動生徒の方も元生徒の方もある。と知った生徒は、誰ということ

もなく話をまとめ、貸し切りバスで出かけた。小生は、引率というより添乗のような格好で同乗したが、学校の許可を得てあつたかどうか定かでない。とまれ、個性味たっぷりの先生方、行動力のある生徒の中で



今年の5月下旬、姫路の円教寺にクルマで出かけたときのもの

もまれ、教師としての基本的な姿勢を身につけ、力量を高めることが出来た四年間であつた。それにしてもお酒の好きな先生方が多かった。赴任早々、玄関前の芝生に、紅白の幕を張りめぐらしての花見の宴で洗礼を受けた。確かに団子はあつたのだが、十里競歩の終わった日の午後には教室でのきりたんぼ会があつた。職員全員が囲むだけの七輪が備わつていた。小生担任の教室が使われたので、翌日生徒に文句を言われたが、酒をやめてくれとは言われなかつた。(生徒の方もどこかで適当にやつていたか?)

ところで秋田市在住の方々の「能代高校一七会、前回は金鹿、秋田北、秋田南校長就任のお祝いの会、小野・平川・武田君の幹事、能代からは飯塚君が駆けつけてくれて楽しかった。同期の諸君相変わらず意気軒昂たるものであつた。

同窓生から

校歌



小林 絢子 (第二十五期)

「人生七十年古来稀なり」と「能高でてから五十年」という二つの大きな節目が因らずも合致した私達能高二十五期生は、平成十七年九月十八日金勇に於て記念すべき同期会を催した。

半世紀を経て相まみえたK君の眼鏡の奥の詩的な目差しに、又、Mさんの昔と変らぬ芸術的なムードに、そして今まさに堂々たるシルバーエイジのやんちゃであつたアイツの笑い声に、樽子山の木造校舎での三年間の思い出が浮かんで消え、消えては浮かぶことであつた。そして宴もたけなわとなつた頃、当然の如く校歌の大合唱が興つた。パレー部の全国制覇、押し出して負けたあの時の野球。笑つて泣いて、叫んで泣いて、校歌と応援歌は常に涙と共に在つた。そんな事を思い出しながら古稀を迎えた私達が一堂に会して校歌を謳えることの幸せと感動を短歌五首に託してみた。

老いづける 我らが声を
一にして 校歌を謳う

能高二十五期生

・勝つて泣き 負けては泣きて
謳いたる 青春の賦よ
校歌・応援歌

・蜜声の 応援団たりし
面々が 今にこやかに
校歌を謳う

・トモさんの 美声なつかし
肩越しに 聞こえるなり
昔のままに

・意気高く
「奮え松陵我が健児と」
謳い納めて大き拍手す

「我ら土曜会」



渡邊 耕佑 (第三十五期)

●会員十人。四十年前は眉目秀麗の好青年も、今や白髪禿頭となつた。製菓業・薬剤師・NTT・県職技師・高校教員・県職員・不動産鑑定士・木材業・市議員・農業と並べると、この集団の性格がわかる。当初は「能代土曜会」を標榜したが、八竜や秋田在住者もいて、能代の冠が外された。大学を卒業して能代に戻つたメンパーが集まり、水・土曜日と赤提灯に集まつては高歌放吟。さすが週2は無理で、いつしか土曜日ごととなり、会の名称となつた。集まつても徒党は組まず、一人一人はいつでも一匹狼の「無頼派」。フランスデモ・ゲバ棒・安田講堂・火炎瓶・浅間山荘・と昇華した激動の大学時代を送つて

同窓会会計報告

I. 経常費 収入の部

平成16年度分(平成16年9月1日より平成17年9月30日まで)

項目	16年度予算額	16年度決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	68,261	4,749	▲ 63,512	前年度より繰り越し
2 入会金	1,257,600	1,698,000	440,400	6,000円×283名
3 会費	2,200,000	1,772,000	▲ 428,000	
4 寄付金	0	38,614	38,614	
5 その他	3	161,004	161,001	基金より繰り入れ、母校賛歌売り払い金
合計	3,525,864	3,674,367	148,503	

支出の部

項目	16年度予算額	16年度決算額	比較増減	摘要
1 会議費	600,000	355,838	△ 244,162	総会・新年会補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	2,446	△ 17,554	電報、香典
3 卒業関係費	104,000	111,142	7,142	入会記念品
4 通信印刷費	1,800,000	2,003,673	203,673	松陵免送、案内はがき、新聞広告
5 事務費	1,000	0	△ 1,000	
6 寄付金	1,000,000	1,100,000	100,000	能代高校教育振興会へ、前野野球へ
7 予備費	864	90,420	89,556	
合計	3,525,864	3,663,519	137,655	

差引残高 収入3,674,367-支出3,663,519=差引残高10,848(次年度へ繰り越し)

II. 基金

種類	平成16年度元金	平成17年度元金	摘要
1 秋田銀行積立	28,465,549	29,347,673	含入会金339,600(1,200円×283名)
2 郵便局	6,734,988	6,741,630	
合計	35,200,537	36,089,303	

同窓会経常費予算(案)

(1) 収入

平成17年度分

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 繰越金	10,848	4,749	6,099	
2 入会金	1,656,000	1,363,200	292,800	6,000円×276名
3 会費	2,000,000	2,200,000	△ 20,000	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	3	3	0	預金利息など
合計	3,666,851	3,567,952	98,899	

(2) 支出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 会議費	40,000	580,000	▲ 180,000	総会等補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 卒業関係費	112,000	110,000	2,000	入会記念品
4 通信印刷費	2,005,000	1,850,000	155,000	会報印刷、発送費はがき、新聞広告
5 事務費	500	500	0	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	129,351	7,452	121,899	
合計	3,666,851	3,567,952	98,899	

来た。
昭和四十年代には、海抜ゼロのむつ黒崎から白山山頂に直登し、二股に戻ってミズやアイコの肉鍋を囲み、酒宴に溺れた。最終列車を逃して、能代残留組に迎えるの車を出させる豪快さもあった。仲間が結婚する時には、会長職に祭り上げ、新妻を招待しての森岳一泊旅行。新郎新婦は雨霰の質問で洗礼を受け、晴れて夫婦となる儀式もあった。
●子育ても一段落した最近の事業は、結婚二十五周年を祝った。更には、春秋年二回のトレッキンでは、桃洞・安・三階・幸兵衛など森吉の滝を制覇し、鳥海マリモ・コマクサ草・泥湯・閻門など、県外にも足が伸びて、

今や十六回目を数える。朝の車は、まずはビールで乾杯し、現地で一時間ほど歩いたことをダシにして、近くの温泉場で汗を流し、酒宴となる。要するに美酒を引き出すための集団なのか。会長・幹事長・会計の他に、酔っぱらいその一。その二が役職名としてあるぐらいだ。会の歌は、人生劇場と能高校歌。
●さて、そんな仲間も、平成十八年二月には還暦、そして定年を迎える。団塊の世代の一寸前を生きてきた我々は、超高齢化社会へ先陣を切って雪崩れ込む。親の面倒を見、子どもを育て、上と下から挟み込まれてきた人生を、樽子山校舎と十里強歩で鍛え上げた豊かな人間性を懐に、更に生き抜いていく。



「酒と泪と男と校歌」

三浦 洋
(第四十五期)

あなたが今まで最も数多く歌った歌は何ですか？
私は自信を持って「高校の校

「白頭搔けば更に短く、すべて簪に勝えざらんと欲す」と、「あねちゃ先生」から教わった漢文の年齢になった。二十年後の「能代高校百周年記念式典」には、土曜会十名が打ち揃って、高橋の校門をくぐる決意を固めているところである。

歌と応援歌」と答える。
音楽の授業と応援団の歌唱指導に始まった校歌と応援歌との付き合いは、酒と泪と共に私の人生を刻んできた。
各運動部の壮行会では、応援団長が迫力満点だった。炎天下での夏の高校野球の応援ではスタンドで声を囁らして歌った。卒業式は高橋移転後最初の卒業生として記念すべき日だったが、実は式中よりも式後に教室で全員がスクラムを組んで歌った校歌と応援歌が忘れられない。級友の顔は皆涙で光っていた。
卒業後も元無線部の仲間と連絡を取り合い、東京の下宿で酒を酌み交わして良く歌った。同じく仲間の披露宴では余興とし

て先輩後輩が一緒に新郎にエールを送るのが決まりだった。最近では東京同窓会でお世話になっている同窓生会員の皆と酒を酌み交わすことが多いのだが、当然「校歌・日本海」が出てからお開きとなる。
これだけ数多い校歌の思い出の中でも、私が最も感動した場面を白状して終りとした。
四年前の東京同窓会総会でのことだった。初参加の福本円さん(六十三期)がリードして校歌を合唱したのだが、彼女のソプラノに思わず心が揺さぶられ、溢れる泪を堪えるのが大変だった。歌声に感動したのは勿論だが、実は高校在学中一度も女子と同じクラスになったことがなかった私が、いつも耳にする校歌との違いに気づき唯然とした瞬間でもあった。

追伸 一度アクセスしてみませんか。「同窓会」ついでいものですよ。

能代高校東京同窓会HP
URL <http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/>
なお、本校HPのリンクのページからも参照できます。

創立八十周年

一、一〇〇人
出席して祝う

理想の追求を
豊かな人間性と創造的な叡智、
果敢な勇気を身につけよ

本校の創立八十周年記念式典が九月十七日(土)に行われました。午前中は記念式典と記念講演会を本校第一体育館で、午後は記念祝賀会を「能代キャッスルホテル」で行いました。以下当日の様をいくつか紹介します。

記念講演会

(午前十一時十分～正午)
次第は以下の通りです。

- 講師紹介
- 講演
- 生徒代表からのお礼の言葉
- 花束贈呈

生徒、教職員、同窓生、旧職員などが出席し、式典が行われました。校長先生からは、「県内五番目の旧制中学校として設立されて以来の本校の歩みや卒業生の活躍ぶりが紹介され、在校生にむけて輝かしい伝統のさらなる発揚に努めてほしい」との挨拶がありました。田中同窓会長からは本校の設立当時の受験競争の厳しさにまつわるエピソードや昭和四十九年に高瑞の地に移転した当時の様子などが紹介されるとともに、「校訓『至誠力行』が卒業生の人生の杖となっていることが強調されました。

記念式典

(午前十時～午前十一時)
次第は以下の通りです。

- 修礼
- 開会の言葉
- 国歌斉唱
- 黙祷
- 校長式辞
- 実行委員長挨拶(田中仁純氏)
- 来賓祝辞(県教育委員会 伊藤美津子氏)
- 生徒代表挨拶
- 表彰状並びに感謝状贈呈
- 教育功労賞
- 感謝状
- 永年功労賞
- メインテーマ採用者
- 校歌斉唱
- 閉式の言葉
- 修礼



在校生もその歴史の重さに聞き入っていた

講演の前半はステージの大型スクリーンにビデオ映像や写真を映し、野口聡一宇宙飛行士を例に取りながら宇宙開発やJAXAでの木本さんの仕事ぶりについて紹介しました。後半では通信衛星が、天気、測位、災害監視、農林業等のさまざまな場面で利用されている現状を説明し、宇宙と身近な生活が繋がっていることを実感させてくれました。

記念祝賀会

(午後一時半～午後四時半)
次第は以下の通りです。三期阿部正義氏の司会で進行了ました。

- 開会の言葉(大高俊美氏)
- 実行委員長挨拶(金谷哲氏)
- 校長挨拶
- 来賓紹介
- 祝辞(小野寺清泉教育長)
- 尺八演奏
- 謡曲(三十一期 佐藤富雄氏)
- 祝言仕舞
- 謡曲(二十三期 北村育二氏)
- 謡曲(十六期 相澤隆二氏)
- 謡曲(二十三期 大坂昇一氏)
- 謡曲(二十八期 島山俊一氏)



講演された木本氏

出席者が二百五十名にもほり、会場から人があふれんばかりの中で、来賓の入場から祝賀会が始まり、お祝いの言葉が続きました。その後尺八の演奏や能が披露され、賑わいの中に、和の伝統が醸し出す引き締まった雰囲気加わり、宴は大いに盛り上がりました。お酒がすすむにつれ、会場の



ますますの発展を願って万歳三唱



校歌を唱い、ムードは最高潮に

業で作成したCDを使って校歌を全員で声高らかに歌い上げました。最後に本校のますますの発展を期し、万歳三唱をして会を閉じました。



小気味よい演奏で大いに盛り上がる

部活動の記録

運動部の活動状況

文章内の番号は、以下の大会の種類を表しています。

- ①平成十七年度春季県北総体
- ②同春季全県総体
- ③同東北総体
- ④インターハイ・国体
- ⑤その他

今年度も能代高校生は、校是である「文武両道」の達成を目指して各分野で活躍をいたしました。今年度の運動部・文化部の活動状況の概略をご報告いたします。なお、個人成績は紙面の都合上、各部から特筆すべき成績のみを報告していただきます。

女子 総合優勝

- ②男子A十一位・B十三位
- バスケットボール部(男子)

①予選敗退

- ②二回戦敗退

バレーボール部(男子)

①五位

- ②二回戦敗退

バレーボール部(女子)

①予選敗退

- ②二回戦敗退

卓球部

①男子団体三位

男子複

優勝 厚木・石田組

ベスト8 小山・及位組

男子単 三位 厚木

女子団体優勝

女子複

優勝 山田・山崎組

三位 嶋津・七戸組

女子単 優勝 山田

- ②男子団体二回戦敗退

個人複

ベスト8 厚木・石田組

小山・及位組

女子団体ベスト8 山田

個人単ベスト8 山田

(東北大会出場)

柔道部

①男子団体優勝

個人男子

優勝 玉藤・山須田

豊澤・細田

二位 信太・大塚
三位 五代儀・相原
女子団体優勝
個人女子
優勝 小林・杉淵・内田
二位 椎名 三位 橋本

- ②男子団体二位

個人優勝 豊澤

(東北大会・インターハイ出場)

二位 工藤 三位 信太

女子団体優勝

(東北大会・インターハイ出場)

個人優勝 椎名

(東北大会・インターハイ出場)

二位 杉淵

三位 橋本・内田

(東北大会出場)

④女子団体三位

男子団体優勝

男子個人優勝 三國

三位 小林

女子個人優勝 袴田

②男子団体決勝トーナメント一回戦敗退

男子砲丸投 優勝 伊藤

男子百十m障害二位 出川

男子四百m障害三位 佐々木

男子百m 五位 佐藤

男子四百mリレー五位 出川

男子千五百m 六位 桜井

男子千六百mリレー四位 菊地

女子混合七種 優勝 秋林

女子百m障害 二位 秋林

女子四百m障害五位 浅野

女子百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子四百m障害五位 納谷

女子八百m 六位 保坂
②男子砲丸投げ 三位 伊藤

(東北大会出場)

男子百十m障害三位出川

(東北大会出場)

男子組手ベスト8

男子個人形優勝 田森

二位 田畑

男子組手ベスト8

六位 児玉

女子組手組手二位 田森・柴田

女子個人組手三位 佐藤

ベスト8

山田・能登・米屋・大倉

個人形

四位 米屋・五位 佐藤

六位 山田・七位 大倉

②女子組手団体優勝

女子個人組手三位 米屋

五位 能登

男子個人優勝 高橋 二位 松本

三位 佐藤 五位 栗林

(東北大会・インターハイ出場)

女子バスケットボール同好会

①四位

②二回戦敗退

文化部の活動状況

演劇部

・東北地区高校演劇合同発表会

・能代山本地区高校演劇秋季コンクール参加

吹奏楽部

・第四十三回定期演奏会

・能代山本地区合同演奏会

美術部

・秋田県美術展覧会

(入選)洋画部門 保坂
・秋田県高等学校総合美術展
入選 一一点

放送部

・秋田県高校放送コンクール朗読部門 入選 塚本

ラジオトキユメント部門入選

テレビトキユメント部門

優秀賞 信太・原田

(全国大会出場)

創作ラジオドラマ部門

優秀賞・入選

茶道部

・能高祭お茶会開催

・おなごりフェスティバル能代書道部

・全県席書大会 一等 四名

二等 四名 三等 三名

JRC

・各種ボランティア等多数参加

囲碁部

・高校囲碁選手権秋田大会

男子団体優勝(全国大会出場)

男子個人優勝 長岡

(全国大会出場)

・全国高等学校将棋竜王戦

男子個人優勝 大塚

予選敗退 市川・長谷川

新聞部

・校友時報二六六号発行

弁論部

・ディベート甲子園東北大会

準優勝(全国大会出場)

無線部

・秋田県ARDF競技大会

女子団体 優勝 細田

女子個人 優勝 細田

二位 青山

(全国大会出場)

写真部

・秋田県高等学校写真連盟展

佳作 佐藤・近藤

入選 大塚

支部 だより

近畿支部

御堂筋バレードに参加

清 水 勇幸雄
今年、二年振りに「能代ねぶながし」が大阪御堂筋バレード



に参加するというので、前回同様「住吉若」の袴田氏に能代高校同窓会近畿支部の参加を、お願いしたら快諾されました。さっそく同窓会開催を計画。平成十六年度同窓会名簿をもとに八十余名に案内状を送付。残念ながら顧問の富波さん（近畿秋田県人会会長）、同窓会会長の堀松さんが所用で欠席、最終的に滋賀の柴田さん、神戸の平川さん、鶴木さん、奈良の嶋田さん、大阪の吉武さん、秋田さん、近畿各地から七名の参加者があり、十月九日(日)午後四時集合、夕闇せまる五時過ぎ出発。七夕の曳き手として滋慶学園生と共に

に参加。たまたま笛で参加の大阪の保坂（旧姓）さんが紅一点の同窓生とわかりびっくり。大阪市役所から心齋橋まで約二時間沿道の観客と感動を共にして御堂筋バレード終了まで、たっぷり汗を流し準備万端。心齋橋の弁天南会館で親睦会。開口一番ビールで喉を潤し、料理に舌

つつみを打ち昔話に花を咲かせ、近況を語り和やかな雰囲気の中で親睦会でした。最後に校歌で打ち上げと行きかけたが、来年の甲子園球場又は明石球場で勝利の校歌を夢見て、おあずけ！兵庫国体もあります。皆何よりも、後輩諸君が近畿にくるのを待ち望んでおります。そのおりはまた同窓会をしましょう。

東京同窓会

会長 太田 勝 治
この度の総会で会長に就任しました二十九期の太田です。



講演する菅原貞敬さん（27期生）

去る十月十五日、東京同窓会が開催されました。参加者は百名前後と少なめでしたがパレ-

ールで有名な二十七期生の菅原貞敬さんの講演は大好評でした。

また、懇親会の方も数年前からは、どちらかというと若手グループが先頭になっていろいろ趣向を凝らして雰囲気盛り上げてくれました。

これから、進学や就職等で関東地方へ来られた時、何かありましたら東京同窓会に御連絡下さい。同窓生は色々の情報を持っておりまして、それらを有効に活用してほしいです。微力ながら皆さんのお役に立てればとても嬉しいですよ。

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/>

県庁能高会

県庁能高会
会長 小 野 公 生
今年度の総会が七月十三日（水）、弥高会館で開催した。出席者は会員はじめ顧問等総数四十人を超える盛会ぶり。

母校からは、校長先生は欠席だったものの松谷健先生と同窓会本部飯坂誠悦副会長の出席。相変わらず元気な佐々木満さん等の顧問・先輩諸兄、豊沢有兄能代市長、高松和夫、中田潤の両県議らが来賓として出席。

一番盛り上がったのは、開会が迫っていた高校野球秋田大会のこと。成るか今年こそ、母校五度目の甲子園出場。野球好きの佐々木満さんそつちのけの豊

沢市長の怪気炎ぶりには、会員一同あつげにとられたものだ。

ニツ井支部

旗の下に集う

ニツ井支部長 豊 澤 幸 夫
復活同窓会唯一の活動が年一度の総会を続けていくこと。十月の暮れに集いました。三十名の参加者は十五期渡辺亨先輩から三十三期中嶋日吉さんの幅の中にあります。

ご来賓として、同窓会会長田中さん、校長菊谷先生がお出で下さり、母校創立八十周年記念事業の経過や学校の現況を伺いました。記念事業遂行の困難儀、学習の進め、部活動の達成感の追求には頭の下がる想いです。「野球の甲子園行き待望論」の声があちこちから挙がりました。

二十二期工藤茂美さん寄贈の校章入同窓会旗を正面に掲げた会場設定で、校歌斉唱の音量も豊かに、談論が続きました。一気に青春時代に戻れる総会。今回もそうでした。

八竜支部

母校の更なる発展を

八竜支部長 畠 山 洋 一
今年度は取りあえず会員相互の親睦を図るため、グランドゴルフ大会を計画してありますが、都合により中止することにいたしました。したがって、この後実施する予定になっている総会までは、報告するべきことがない状況で残念に思っています。

総会は、毎回和気あいあいの

雰囲気うちに盛会に開催されてますが、できるだけ大勢の参加を得たいと思っています。いづれ、話題も最後は母校の活躍を期待すると言うことになります。

事務局から

- 「同窓会員名簿」の目的外使用で非常に迷惑を被っている方がおります。「会員名簿」は同窓会活動以外には絶対に使用しないでください。
- 能代高校80周年記念事業「同窓会寄付金」のご寄付者への御礼の会計報告が、作業日程等の事情で年明けになってまいります。ご容赦ください。

◎松陵委員会から

今回「松陵」第十七号を発行するにあたり、原稿をお寄せいただきありがとうございました。心からお礼申し上げます。今号は例年どおりの発行となりまして、「恩師探訪」「同窓生から」のコーナーは今後も継続していく予定です。

さて、「松陵」では引き続き同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。在学中の思い出や母校への想い、または、各支部・各期同窓会の報告等、お送りください。

同窓生の絆をいっそう深める同窓会誌「松陵」の紙面充実のためにご協力をお願いします。なお、原稿の送付先は能代高校内同窓会事務局まで。